



## 伊豆山意見交換会

熱海市長 齊藤 栄

現在、「伊豆山ささえ逢いセンター」が中心となって、応急仮設住宅へ入居された皆様のサポートを行っています。同時に、伊豆山の様々な地元の声をお聴きするために、各種団体との意見交換会を行っています。

例えば、伊豆山地区の町内会長やその役員の皆さんには、市民生活や事業活動に関する多くの要望などを代弁いただきました。民生委員・児童委員の皆さんからは、発災直後や避難所における被災者をフォローするなかで感じたことなどを話していただきました。消防団の皆さんからは、発災時の救助活動や、その後の交通誘導などの経験とあわせ、今後安心安全なまちづくりを行うためのご意見をお聴きしました。また、地元で復興支援を行っている団体の皆さんなどからも、活動を通しての想いを伺いました。

この中で、「被災者は警戒区域内にいつ戻れるのか」についての質問もありました。現在、立入禁止となっている警戒区域の解除時期については、逢初川の改修と上流部の砂防ダムの整備を行っている県や国と調整を行い、その方向性を伊豆山の皆様へ示していきたいと考えています。

伊豆山での意見交換会は市役所に対する厳しいご指摘とともに、市長である私にとって初めて知る内容も少なくなく、大変貴重な機会となっています。今後はここでお聴きした内容を踏まえながら、復興に向け一步一步進んでまいりたいと考えております。



## 復興計画検討委員会

熱海市長 齊藤 栄

伊豆山土石流災害の発災から既に8カ月が経ちますが、去る2月25日に第1回の伊豆山復興計画検討委員会が開かれました。

復興計画は被災地域の今後の復興に向けた基本的な方針などを定めるものです。私はこの計画を作るにあたって最も大切なことは、「住民の皆さんの意見をいかに反映させるか」だと考えます。委員は、被災町内会や福祉・教育・産業に関する団体からの推薦者と学識経験者などですが、決してこの10名から成る委員の意見だけを聞いて計画を作るわけではありません。委員以外の方を委員会にお呼びして意見を述べて頂いたり、個別にヒアリングを行うなどして、住民の皆さんの様々なご意見をしっかりと吸い上げたいと考えております。

当日の委員会では、「住民の安全安心が何より重要な基本理念」「若い人の意見を聞く必要がある」「元々あったコミュニティを維持して欲しい」「道路の整備などにより、新しい人を呼べるようにして欲しい」などの意見が出ました。同時に、現在被災者の皆様が抱えている将来に対する不安や心配などについての意見や質問も出されました。

復興計画は市役所が一方的に作るものではありません。住民の皆さんがどんな地域にしたいと考えるのか、被災された方々がどんな地域であれば帰ってきたいと思うのかを共有することが大切です。この委員会を通して、伊豆山の皆さんが将来の希望を感じられる計画を作ってまいります。



## 令和4年度がスタートしました！

熱海市長 齊藤 栄

新年度が始まりました。3年目に入り長期化する「コロナ禍」は、市内経済と市民生活に多大な影響を及ぼしています。また、「伊豆山土石流災害」という未曾有の大災害により、多くの尊い命が犠牲となっただけでなく、かけがえのない故郷が一瞬で失われました。新年度はこの二つの課題に最優先で取り組んでまいります。

「コロナ禍」に関しては、市民の命を守るため、迅速なワクチン接種と自宅療養の支援を行います。また、経済対策として、観光需要の平準化とターゲット顧客層の拡大を図るため、企業向けのプロモーションを行うとともに、その受け皿の一つとなるワーケーション施設の整備を継続して実施します。この取り組みは「新たな観光スタイル」を作ることを目指したものであり、誘客促進の新たな柱としてまいります。

「伊豆山土石流災害」に関しては、被災者の見守りや相談支援を引き続き行うとともに、住民の皆様のご意見をできる限り反映させた復興計画を策定し、逢初川沿い市道の再整備などを実施してまいります。また、県と連携して、土石流の原因究明と、課題となっている盛土への対応を着実に進めてまいります。

私達が直面しているこの難局を乗り越えるには、熱海に関わる全ての人が一致団結して「オール熱海」体制で取り組んでいくことが必要です。どうか皆様のご理解とご協力をよろしく願います。



## 雑がみ回収と防災風呂敷

熱海市長 齊藤 栄

先日、富士市内の製紙会社の工場で、同社と災害協定を結んでいる県内5つの市への防災グッズ贈呈式があり、熱海市も協定を結んでいる市として出席してきました。

防災風呂敷などを寄贈いただいたのですが、この防災風呂敷が大変すばらしいものでした。災害による一時避難時に何を持っていくべきかを、高齢者、障がい者、一般、子育て中の人に区分し、分かりやすいイラストで説明されています。また、持ち出し品をひとまとめにするだけでなく、防水加工素材で水を運ぶことも出来るといった優れものです。この防災風呂敷は伊豆の国市の市民団体がこの製紙会社の協力を得て開発したとのことで、市民の自発的な活動がこのように目に見える形になったことにとっても感銘を受けました。

熱海市における市民の自発的な活動と言うと、例えば、平成23年から進めている雑がみの回収が挙げられます。現在、年間約80トンの雑がみが回収され、トイレットペーパー2万個へのリサイクルが実現しています。主体となっているのは旅館・ホテルを始めとした市内事業者と市民の皆さんです。市は市役所などに雑がみ回収ボックスを設置するなどの側面支援をしてきたにすぎません。

自然災害が頻発する中、今後、防災対策を引き続き充実させていく必要があります。また、市民一人ひとりの防災意識を更に高めていかなければなりません。皆様と共に、これらの課題に取り組んでまいります。



## 賑わいのある夏に向けて

熱海市長 齊藤 栄

新型コロナウイルス感染症の感染拡大から既に2年以上が経過し、市民生活や経済活動に大きな影響が出ていますが、最近ようやく明るい兆しも見え始めています。

ひとつは、熱海の活況を聞く機会が増えてきたことです。先日も市内で行われた観光関連の会議に参加した際に、県外からいらした複数の方から「熱海の賑わいは大分戻りましたね」と声をかけられました。また、今年のゴールデンウィーク期間中の宿泊客数も昨年と比べ18%の増加となりました（4月28日から5月5日の比較）。3年ぶりに緊急事態宣言等の制約が無いゴールデンウィークとなったことが主要因です。通年の宿泊客数はコロナ前の数字にはまだ及ばないものの、明るい兆候に間違いありません。

もうひとつは、現在の感染者数の減少を踏まえ、中止していた観光行事などの再開が進んでいることです。5月末に「初島ところ天祭り」と「日本マスターズ水泳短水路大会」が3年ぶりに開催されました。どちらも多くの方々が待ちわびていた行事であり、参加者の喜びは大きいものでした。また、7月の「こがし祭り山車コンクール」についても3年ぶりに開催の予定です。

観光を基幹産業とする熱海市にとって、「ウィズコロナ」は重要なテーマです。熱海の繁忙期である夏に向けて、感染対策をしっかりと施しながら、多くのお客様を迎え入れる準備を進めてまいります。



## 伊豆山復興基本計画

熱海市長 齊藤 栄

このたび、「伊豆山復興基本計画」を策定しました。この計画は伊豆山土石流災害からの復旧・復興に対する基本的な考え方や方向性を示すものであり、3つの基本目標として、「安全・安心の確保」「速やかな生活再建」「創造的復興」を掲げています。

この復興基本計画の策定にあたっては、地域の皆様の声を反映させることが最も大切であると考えており、復興計画検討委員会の議論に加えて、意見交換会やヒアリングなどの地元からの意見聴取にも力を入れました。これにより、しっかりした内容の計画が出来上がったと考えています。特に、要望が強かった「住宅の自力再建に対する支援」「被災事業者に対する支援」を主要施策に盛り込んだことは、被災者の皆様の不安を解消することにつながり、大きな意味があるものです。

復興基本計画の次の段階は、「伊豆山復興まちづくり計画」の策定です。ここでは、復興基本計画を踏まえた土地利用や地域に必要な公共施設などを盛り込んでいきます。ワークショップなどを通して、地域の皆様の意見や考えをさらに反映させながら、まとめていきたいと考えています。

被災地域の「復興」については様々な意見があり、復興にはまだ早いという声もあります。しかしながら、発災から1年が経った今、希望する方が1日も早く伊豆山に戻ることができるよう、復興に本格的に力を入れていくべき段階に来ていると考えております。



## あなた自身の社会

熱海市長 齊藤 栄

熱海の中高生には是非読んで欲しい本があります。今の時期なら夏休みの課題図書といったところでしょうか。書名は『あなた自身の社会』、スウェーデンの中学教科書を日本語に翻訳したものです。私は40歳頃にこの本を初めて読んだのですが、その内容に強く感動し、今でもいつも手元に置いています。

国の法律や国会、裁判所の役割に始まり、税金や社会保障の仕組みなどについて書いてあるのですが、とても分かりやすく、具体的であることが特徴です。例えば、「家族の経済」という項目では、ある家庭の収入と実際にかかる支出を一覧にして、子供たちを育てることにかかにお金がかかっているかを示しながら、税金を払わなければならないが、その税金が児童手当などの形で必要な家庭に支給される仕組みを説明しています。

また、基礎自治体であるコミューン（日本の市に当たる）の役割を考えさせる章では、学校の給食をもっと美味しいものにするための運動を生徒自らが行った事例を用いて、コミューンにおける予算編成作業の進め方と、生徒たちの行動が適切なものだったかについて考えることを促す内容となっています。

この本を通して貫かれているのは、より良い社会は、誰かが与えてくれるものではなく、あなた自身が作り変えていくものであるという考えです。冒頭、この本を熱海の中高生に読んで欲しいと書きましたが、大人の皆さんにも是非読んで頂きたいと思います。



## 5期目を迎えて

熱海市長 齊藤 栄

先の市長選挙で、再び市長職を担うこととなりましたが、選挙期間中に市内をくまなく回り、各地域に住む市民の皆様の声を直接お聴きすることができました。

喫緊の最重要課題は「伊豆山土石流災害からの復興」です。被災された皆様に対する見守り・相談支援はもちろんですが、一日も早く家に帰れるよう、被災地域の復旧・復興事業をもっと迅速に進めて欲しいという声も多く聞きました。国による砂防ダムの建設と静岡県による落ち残り土砂の撤去が予定通りに進めば、来年の夏の終わりまでに警戒区域を解除し、インフラの整備などの条件が整い次第、帰還が可能となります。帰還を希望される方の期待に応えられるよう、今後、復旧・復興事業に全力で取り組んでまいります。

他にも、市内を回る中で様々な要望などをお聴きしましたが、その多くが本市の急速な人口減少や少子高齢化に起因する課題でした。例えば、利用者数が減少する中で公共交通の確保や、少子化が進むことによる小中学校の問題などです。これらは全国の地方都市が抱える課題であり、解決は容易ではありません。この難題解決には、行政だけで結論を出すのではなく、地域の皆様と知恵を絞って解決策を講じることが必要であると考えます。

今回、5回目の市長任期となりますが、市政の課題は益々難しくなっています。初心を忘れず、市民の皆様にとって何が最善なのかを判断基準に据え、実行に移してまいります。





## 板妻駐屯地の記念行事に参加して

熱海市長 齊藤 栄

先日、御殿場市にある陸上自衛隊板妻駐屯地の創立60周年記念行事に参加しました。当日は記念式典と共に、空砲を撃ち鳴らした実戦さながらの模擬戦闘訓練の展示や、様々なアトラクション、自衛隊車両の体験試乗、装備品展示などもあり、見学に来られた住民の皆さんも興味深く見入っていました。

昨年の伊豆山土石流災害では、この板妻駐屯地からも多くの自衛隊員が駆けつけてくれました。胸まで泥につかりながら、また炎天下の厳しい状況の中で救助・搜索活動を行っていただいたことを、昨日のことのように思い出します。本当に頭の下がる思いです。

熱海市は7年前の平成27年度から自衛官OB（退職者）を市役所職員として採用しています。自衛隊での経験を活かして、これまでに危機管理監や消防長を務めてもらいました。特筆すべきは、昨年の土石流災害での活躍です。救助・搜索活動において、警察、消防、そして自衛隊が各地域から熱海入りし、一日千人を超える大所帯の応援部隊が編成されました。この大所帯を取りまとめる陣頭指揮を執ったのが自衛官OBの職員です。緊急事態で混成部隊を指揮することは非常に困難です。この自衛官OBの存在が、スムーズな救助・搜索活動を可能にしたと思います。

熱海市のような小規模自治体にとって、大規模災害発生時における自衛隊の支援は必要不可欠です。今後とも、自衛隊との良好な関係を構築し続けていきたいと考えています。